水道施設で使われている機器について紹介します！～送水ポンプ編～

いつでも安全でおいしい水道水を届けるために、水道施設内ではたくさんの機器が活躍しています。

今回は、長府浄水場内にある送水ポンプについて紹介します。

長府浄水場で作られた水は、水質試験により安全が確認された後、高台にある配水池に送られます。この時に使用するのが送水ポンプです。長府浄水場では13台の送水ポンプが稼働しており、最大のものでは1台で1時間に750㎥（学校のプールおよそ2杯分）の水を送ることができます。市内の水道水の約80%をまかなう長府浄水場では、毎日休むことなく約80,000㎥の水道水をご家庭に送り、市民の皆さまの生活を支えています。

送水ポンプの点検をしている様子

水の四字熟語

社会福祉法人中部少年学院
理事長　石川　啓

雲水行脚（うんすいあんぎゃ）

出典　広漢和辞典　大修館書店（諸橋轍次･鎌田正･米山寅太郎）
　　国語大辞典（尚学図書編）　小学館
参考　夏目漱石　吾輩は猫である　岩波文庫
　　武部良明　四字漢語辞典　角川ソフィア文庫
　　岸澤惟安　正法眼蔵全講第十五巻
　　Gakken　用途でわかる四字熟語辞典
　　田部井文雄　大修館四字熟語辞典
　　三省堂　新明解四字熟語辞典
　　小学館　日本百科大事典（1）（2）（9）

空を行く雲や流れる川の水のように、一か所に留まることなく、各地を遍歴する修行僧のことを「雲水」と言います。「行脚（あんぎゃ）」は足を移すという意味があり、修行僧が修行のために各地を旅することを言います。

「雲水行脚」は文字通り「雲水」のように「行脚」するという意味で、禅宗では最も基本的な修行法として重んじられてきました。

我が国では、鎌倉時代から盛んに行われ、数十人の師のもとに参じたという例も稀ではなかったといいます。

雲水行脚は、網代笠（あじろがさ）に黒衣をまとい、白の手甲脚絆をつけて杖を持ち草鞋（わらじ）履きというのが基本装束です。また、修行生活に必要な袈裟（けさ）や食器類を入れた頭陀（ずだ）袋を首からかけて歩きます。頭陀（ずだ）とは、衣食住の欲望を断ち切る大切な修行で、中でも、托鉢（たくはつ）は僧侶が身命を支える修行に専念するため重視されました。修行僧は日中食事をすることが許されないので、托鉢（たくはつ）は早朝に行われました。鉢を揚げ鈴を振り「ホオー」と唱えて行脚したといいます。参考までに、夏目漱石は「吾輩は猫である」において、「一所不住の沙門（しゃもん）雲水行脚の衲僧（のうぞう）は必ず樹下（じゅげ）石上を宿とすとある」と記しています。

※衲僧とは禅僧のことです。